

4. 火災の実態

1. 火災の概要

平成 14 年中の火災は、出火件数 3,029 件、損害額 5,643,811 千円、死者数 122 人、建物焼損床面積 56,329 m²、建物焼損表面積 6,085 m²、林野焼損面積 2,957a、焼損棟数 1,975 棟、り災世帯数 1,266 世帯、り災人員 3,392 人となった。

(火災の状況)

区 分	平成 14 年	平成 13 年	対前年増減数 C = A - B	増減率
	A	B		$\frac{C}{B} \times 100 (\%)$
出火件数	3,029	3,292	263	8.0
建物火災	1,399	1,485	86	5.8
林野火災	181	153	28	18.3
車両火災	374	444	70	15.8
船舶火災	2	4	2	50.0
航空機火災	0	1	1	100.0
その他火災	1,073	1,205	132	11.0
焼損棟数	1,975	2,058	83	4.0
り災世帯数	1,266	1,244	22	1.8
り災人員	3,392	3,297	95	2.9
焼損面積				
建物床面積 (m ²)	56,329	61,802	5,473	8.9
建物表面積 (m ²)	6,085	7,027	942	13.4
林野 (a)	2,957	2,999	42	1.4
損害額 (千円)	5,643,811	5,694,842	51,031	0.9
死者 (人)	122	108	14	13.0
負傷者 (人)	376	409	33	8.1

H7.1.1 から建物焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。

また、平成 14 年中の火災の発生を一日当たりで見ると、出火件数 8.3 件、損害額 15,462 千円、死者数 0.3 人、建物焼損床面積 154.3 m²、建物焼損表面積 16.7 m²、林野焼損面積 8.1 a、焼損棟数 5.4 棟、り災世帯数 3.5 世帯、り災人員 9.3 人である。

2. 出火件数

総出火件数は、3,029 件で前年と比べて 263 件減少している。これを火災種別で見ると次のとおりである。

種別	建物	車両	林野	船舶	航空機	その他
14 年 (3,029 件)	1,399 件 (46.2%)	374 件 (12.3%)	181 件 (6.0%)	2 件 (0.1%)	0 件 (0.00%)	1,073 件 (35.4%)
13 年 (3,292 件)	1,485 件 (45.1%)	444 件 (13.5%)	153 件 (4.6%)	4 件 (0.1%)	1 件 (0.03%)	1,205 件 (36.6%)

- (注) ア 建物火災とは、建物又はその収容物が焼損した火災をいう。
 イ 林野火災とは、森林、原野又は牧野が焼損した火災をいう。
 ウ 車両火災とは、原動機によって運行することができる車両及び被けん引車又はこれらの積載物が焼損した火災をいう。
 エ 船舶火災とは、船舶又はその積載物が焼損した火災をいう。
 オ 航空機火災とは、航空機又はその積載物が焼損した火災をいう。
 カ その他の火災とは、アからオまでに掲げる火災以外の火災をいう。

(1) 月別出火件数

出火件数を月別にみると、3月が420件と最も多く、2月339件、1月304件と続いている。

(2) 出火率

出火率(人口1万人当たりの出火件数)をみると県平均5.0件となっている。

3. 損害額

火災による損害額は5,643,811千円で前年比51,031千円(0.9%)減少した。また、県民1人当たりでみると940円(前年955円)、1日当たりでは15,462千円(前年15,602千円)、1件当たりでは1,863千円(前年1,730千円)となった。

4. 出火原因

出火件数を出火原因別にみると、次のとおりである。これは前年と同じ傾向にある。

たき火	放火・放火の疑い	たばこ	こんろ	火遊び	その他
294件 (9.7%)	773件 (25.5%)	301件 (9.9%)	243件 (8.0%)	83件 (2.7%)	1,335件 (44.1%)

5. 死傷者の実態

(1) 死傷者数

火災による死者は122人、負傷者は376人で前年に比べて死者は14人(13.0%)の増、負傷者は33人(8.1%)の減となった。

(2) 火災種別にみる死傷者数

火災種別でみると建物火災が死者66人、負傷者312人でそれぞれ全体の54.1%、83.0%と大部分を占め、林野火災が死者2人、負傷者7人(1.6%、1.9%)、車両火災が死者24人、負傷者19人(19.7%、5.1%)その他の火災が死者30人、負傷者38人(24.6%、10.1%)となっている。

(3) 月別の死者数

死者を月別にみると3月が17人と最も多く、次いで1月が16人となっている。

(4) 年齢別の死者数

死者を年齢別にみると次のとおりであり、高齢者(61歳以上)は全体の4割以上を占めている。

区分	0歳~20歳	21歳~30歳	31歳~40歳	41歳~50歳	51歳~60歳	61歳~70歳	71歳以上	不明
件数	7	6	9	17	26	22	33	2
割合	5.7%	4.9%	7.4%	13.9%	21.3%	18.0%	27.0%	1.6%

(5) 死因

死者を死因別にみると自殺57人(46.7%)、火傷によるもの30人(24.6%)、一酸化炭素中毒・窒息27人(22.1%)、その他・不明8人(6.6%)となっている。

6. 火災種別ごとの出火件数及び損害額等

火災種別ごとの出火件数及び損害額は次のとおりである。

火災種別	件数	損害額千円	焼損面積	焼損棟数	り災世帯数	り災人員
建 物	1,399 (5.8%)	5,353,335 (0.7%)	床面積 56,329 m ² (8.9%) 表面積 6,085 m ² (13.4%)	1,975 (4.0%)	1,266 (1.8%)	3,392 (2.9%)
林 野	181 (18.3%)	12,233 (56.8%)	2,957 a (1.4%)	-	-	-
車 両	374 (15.8%)	145,254 (24.5%)	-	-	-	-
船 舶	2 (50.0%)	5,942 (78.3%)	-	-	-	-
航空機	-	-	-	-	-	-
その他	1,073 (11.0%)	124,414 (19.1%)	-	-	-	-
(爆発)	9	2,633 (51.1%)	-	-	-	-

()内は対前年比

H7.1.1 から火災の定義に爆発現象が加わった。爆発の件数は出火件数の内数。損害額は外数。

H7.1.1 から建物の焼損面積について、建物焼損床面積、建物焼損表面積に区分した。